

令和7年度 園評価書

園番号

49

園名 静岡市立由比中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かな子	夢中になってあそぼう	様々な事に興味をもち、自分から夢中になって遊んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育教諭が道具や素材を用意することで、子ども達は様々な事に興味や関心、憧れを持ちながら遊ぶ姿が見られた。しかし、発達に合っていない関わりや環境になってしまったこともあった</li> <li>地域のものを取り入れ、自園の資源としていくことが弱かった</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども園が安心できる場所が一番大事だと思う。改善策は、具体的でよい。水平展開して良い</li> <li>地域の資源を自園の資源にするのが弱いと課題にしているが、由比の町を段ボールで作ったり、船を作っているので資源を取り入れていると思う。自分が由比の地域を意識したのは小学校からだったので、こども園から感じているのはいいことだと思う</li> <li>個々を大事にしながら、時には表現させながら年齢に合わせた関わりを意識していて良いことだと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も、職員間で発達に見合った素材と道具はどんな物なのか、学び合いながら提供できるようにする</li> <li>地域の良さ、資源を教育保育に取り入れることで、子ども達が様々な事、物、自然に興味関心をもてる環境を整る</li> <li>子ども達が「どんな思いも先生達は受け止めてくれる」と安心して自分を出せる関係を築く</li> <li>保育教諭に受け止めてもらうことで、こども園が安心できる場所となり、認められることで自己肯定感が育まれ、他者にも優しく接し関わるができるようになることを意識し保育教諭は子ども達に丁寧に関わっていく</li> <li>こども同士がお互いの良さを知ったり認め合うことのできる場を意識して設けていく</li> <li>保育教諭同士が子どもの良さや、おもしろい所を伝え合い共有していく</li> </ul>
		自分の思いや感じたことを言葉や行動で表現している	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児は自分の思いを言葉にして表現できるようになってきた。乳児は、それぞれの表現方法で伝えようとしている姿がある</li> <li>友達を不快にする言葉遣いや、威圧的な態度をとったりしてしまう姿も見られる</li> <li>言葉だけの表現ではなく、様々な方法の描く・歌うなどでの表現の機会が少なかった</li> </ul>	A	A		
		友だちの良さを知りながら一緒に遊ぶことを楽しんでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と関わりながら、一緒に遊ぶことを楽しむ姿が見られるようになった。反面、友達と一緒に遊びたい気持ちはあるが、関わりが不器用な子もみられる</li> <li>保育教諭が、友達の良さと自分の良さを感じられる振り返りの場を設ける事の意識が弱かった</li> </ul>	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験を把握し、学年目標を理解して様々なひとやもの、自然と関わっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当が各歳児の発達をおさえ保育計画を立て、日々の保育を行い自身の保育を振り返りを行うことができた。(PDCAを行うことができた)保育の中に、地域の資源を保育に活用する力が弱かったと感じる</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>0.1歳のこども達の様子からもわかるが、こども園に楽しんできていると感じた。全体を見てもこども達を細かくみていると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も、各年齢の発達をおさえ、発達の道筋意識した保育過程を立てる。定期的に振り返り、学年目標に向かった保育が行われているか確認していく</li> <li>保育過程に由比ならではの地域の資源を生かした体験、人、物、自然を取り入れていく</li> </ul>	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の生活リズムを大切に、静と動のバランスを考え、安心して過ごせるようにする</li> </ul>	A	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>安心できる関係作り、安心して過ごせる環境作りを大事にする</li> <li>早番、遅番の環境を定期的に見直す。職員間で過ごし方を確認することで一貫した関わりができるようにしていく</li> </ul>
		(3)環境を通して行う教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもが夢中になって遊ぶ環境づくりを一緒に行っている</li> </ul>	A	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心が第一。訓練を行う事が大事。100%良かったという訓練はないと思う。必ず改善点があるので、丁寧に行ってほしい</li> <li>乳児室でコーナーのクッションがとれている箇所を見かけました。安全に生活や遊ぶように改善をお願いします</li> </ul>
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	多様な災害や事故の情報を共有し、職員全員で安全な園生活を保障している	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月ヒヤリハットを書くことでハード面の修正や意識改善を行うことができたが、道具や遊具の中に劣化している箇所があるが、職員同士で共有ができていない時があった</li> <li>様々な想定での避難訓練、不審者訓練を行うことができた。避難訓練時、減災教育の視点から「自分たちで考えながら避難する」を意識しながら行っていたが全職員に浸透できなかった。また、訓練後の課題の共有や改善策が話しあえない時があった。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心が第一。訓練を行う事が大事。100%良かったという訓練はないと思う。必ず改善点があるので、丁寧に行ってほしい</li> <li>乳児室でコーナーのクッションがとれている箇所を見かけました。安全に生活や遊ぶように改善をお願いします</li> <li>給食サンプルは、こどもと一緒に降園時に見ている。給食サンプルを活用するのはいいと思う。</li> <li>園長はじめ職員の皆さんのこども達への愛情を込めた保育は園児の笑顔を見ればわかります。職員の皆さんも気持ちよく働いていることは、管理者の方たちの職員の方々への配慮あつてのことと、園運営の努力を感じます</li> <li>会計年度職員の先生はどの様に研修に参加させているのか？研修の学びを会計年度任用職員と共有する事が難しい中、時間を作る難しさは共感できる。保護者の方からは、会計年度任用職員なのか正規なのかなどは解らないし、皆同じ保育教諭であり差はなく保育してくれていると思っている。会計年度任用職員の熱い思いを引き出しながら保育ができるとうい</li> <li>「片付け」は本当に難しい課題だと思う。家庭と連携して行ってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も定期的にヒヤリハットを出し合い共有する事で、大きな事故を回避していく</li> <li>分掌は、訓練後の反省から課題を見つけ解決策を話し合い決まったことを共有していく</li> <li>会計年度任用職員に減災教育の研修に参加してもらう</li> <li>次年度は、調理員も参加して訓練ができるように調整する</li> </ul>	
		(1)健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人差に配慮しながら、食べることを楽しみ食べ物への興味関心をもつことが出来ている</li> </ul>	A	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も調理員の力を借りて、細やかな給食提供を行う。また、自分たちで栽培した野菜を収穫し、クッキングを通して食べることの楽しさを味わわせていく</li> <li>定期的な食育だよりを発信し、給食のサンプルを活用し食育を行っていく</li> </ul>
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差に配慮しながら、食べることを楽しみ食べ物への興味関心をもつことが出来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳児は、調理員と連携して個々に合った食事の提供が出来た。幼児の食事の様子も見回ってくれたり、クッキングにも参加してくれたことで、各クラスの様子を把握しながら調理してくれたことが、こども達の食べる意欲につながった。</li> <li>食育の発信ができていなかった</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園長はじめ職員の皆さんのこども達への愛情を込めた保育は園児の笑顔を見ればわかります。職員の皆さんも気持ちよく働いていることは、管理者の方たちの職員の方々への配慮あつてのことと、園運営の努力を感じます</li> <li>会計年度職員の先生はどの様に研修に参加させているのか？研修の学びを会計年度任用職員と共有する事が難しい中、時間を作る難しさは共感できる。保護者の方からは、会計年度任用職員なのか正規なのかなどは解らないし、皆同じ保育教諭であり差はなく保育してくれていると思っている。会計年度任用職員の熱い思いを引き出しながら保育ができるとうい</li> <li>「片付け」は本当に難しい課題だと思う。家庭と連携して行ってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も調理員の力を借りて、細やかな給食提供を行う。また、自分たちで栽培した野菜を収穫し、クッキングを通して食べることの楽しさを味わわせていく</li> <li>定期的な食育だよりを発信し、給食のサンプルを活用し食育を行っていく</li> </ul>	
		(1)支援体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援計画に基づき、その子の好きな事や得意に事を活かし園生活を楽しめるようにしている</li> </ul>	A	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有する事が大事とし、サポートプランを全職員が読めるようにする。会計年度任用職員を中心に会議を行い支援児への関わりについて話し合っていく</li> </ul>
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が情報を共有し、夢中になって遊ぶ姿の語り合いが常時行われ連携して保育している	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境会議が定期的に行われ、こども達が夢中になって遊ぶための環境や各クラスの遊びの様子を伝え合い、お互いアドバイスし合い、語り合いはできた</li> <li>連携面では、分掌内で報告が上手く共有できていなかったり、円滑に活動ができていなかったりする。内容変更の周知徹底が不十分なこともあった</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も定期的にこどもの様子、環境作りや遊びについて話し合う場を研修部中心に設けていく</li> <li>連携については、会議後の報告は参加していない職員に印刷して配布し、情報を共有していく。変更や追加情報については、各分掌が打合せのファイルを活用し連携していく。会議に参加できない職員は、受け身にならず積極的に情報収集し確認をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修部中心に、事前研修や事後研修のやり方を見直し、学びが深まるための方法を見つけ、実施していく</li> </ul>	
		(1)研修体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修でおもしろいつながる遊び場づくりについて語り合い、学び合う</li> </ul>	A	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との連携は、こどもの前にまず職員同士がつながってほしいと思う。体験入学の時に1年生が年長がタブレットの使い方を教える場面があった。そのような場面での交流ができるよう、まず職員がつながることで方法が見いだせるのではないかと</li> <li>若くて何もわからないお母さんもいる。孤立している人もいるかもしれないので、支援センターと連携して行ってほしい大事だと思う。</li> <li>地域の方の力を借りていっぱい体験させてあげたいですね</li> </ul>
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	こども達と一緒に片付けられる環境を作っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>片付けの場所を可視化し、こども達にわかりやすくするように取り組んだが、片付けになるとその場からいなくなったりと回避したがるこどもの姿があり、「なぜ、やらないのか」の検証をする必要がある</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「片付け」は本当に難しい課題だと思う。家庭と連携して行ってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新年度スタート時に同じクラスの職員で、発達をおさえながら遊びの始め方や終わり方(片付け)や身辺自立等細かく考え方をすり合わせ、スタートさせることを各クラス行うようにする</li> <li>保育教諭自身が玩具や道具を大事に使う姿を見せながら、一緒に片付けを行っていく</li> </ul>	
		(1)家庭教育への支援機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との情報交換や悩み事の共有を面談や日々のコミュニケーションを通して行い関係を築くことができています。しかし、一部の保護者の対しては気持ちに寄り添えなかったり、保育者が勝手な思い込みで関わり関係づくりができなかった</li> </ul>	A	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>これからも、子どもの様子を保護者に沢山伝え、日々のコミュニケーションを大事にしながら信頼関係を築いていく。話したいけれど、話すのが苦手な保護者のどの様に支援していくのか、その方法を身につけるために職員で学び合っていく</li> </ul>
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育を行い情報共有している。また近隣の園小と交流する機会を設け関わる力を深めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は講師を招いて公開保育や事後研修を行い近隣園と共に学びを深めることができた。</li> <li>こども達は近隣校と年長中心に交流をすることができているが、生徒同士の交流が少ないと感じている。また、近隣園とは行事や遊びを通して交流ができた反面、天気や人的課題で流れてしまった計画もあった</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も、地域の方々や自然を活用し、由比ならではの教育保育を行っていく。また、特産物を使つての直接体験がどのような方法があるのか見いだしていく</li> <li>支援センターと連携し、こども園に興味関心をもつていただけるよう模索していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>由比小の生徒との交流を増やす方法を考えていく</li> <li>近隣園との交流の仕方を見直し、遊びの中で親睦を深めていく</li> </ul>	
		(1)信頼される園づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々や、自然の力を借り直接体験を行うことができた</li> <li>子育ておしゃべりサロンの参加が少なく、地域の子育てとの連携ができていない</li> </ul>	A	A			